

全国

検数労連

第808号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港福会館 5階

Tel 03(3733)5621 Fax 03(3733)5622

メール roren@knsu.jp

ホームページ http://knsu.jp/

 全国検数労働組合連合
書記局

6月16日(月)第3回 検数労連25夏季一時金交渉10:00~10:30

我々が求めているものは『賞与』ではなく『一時金』!

支部間業績を廃止し、従業員の生活実態に則した組合要求に沿った回答構築を求める!

6月16日(月)第3回検数労連25夏季一時金交渉で組合は両協会の収支状況と見直し、今夏季一時金に対する考え方等の披露を求め、交渉行いました。

《全日検》

24年度の収支状況について、中東紛争の影響等を受け、既存取扱い貨物である完成自動車等の落ち込みがあったものの、検査事業や継続的に行っている料金改定の取り組みなどによって24年度は一定の剰余を残すことができた。

25年度については、米国の関税政策の影響で完成自動車等の取り扱いが減少しており、先行き不透明な状況となっている。

そのようななかではあるが、今夏季一時金の支給算式等の考え方については、従来通りを踏襲した考えでいる。

《日検協会》

今夏季賞与の判断材料となる2024年度の下期事業収益は、収益対策による波及効果によって、主要取扱貨物である自動車関係では計画比増となったものの、北米での自動車メーカーの競争激化や中国・欧州経済の低迷によるコンテナや倉庫関係の取扱い、さらには検量・検査において農産物の取扱いがそれぞれ減少した影響により、一部の支部で計画比未達。事

業利益ではほとんどの支部で計画比未達となった。また、直近4・5月の事業収益は一部の支部で計画比未達となっているが、全体的には概ね計画通りに推移している。しかしながら、春闘時にも説明した通り、米国の関税措置による影響は注視しなければならず、また、長引く中国経済の低迷など混沌とした世界情勢の中で収益面での不安を抱えているが、引き続き増収対策をはじめ収益確保に向けて協会一丸となって推し進めていく。

一方、足元では米の価格の高止まりなど諸物価高騰の余波がいまだに続いていることから、従業員の生活不安を少しでも緩和することができるよう鋭意検討中である。

なお、支給配分については、これまでと同様の考え方を基本に検討を進めており、業績加算についても実施する方向で考えている。

《組合主張》

組合は両協会からこれまでの収支状況や今後の見直し、今夏季一時金に対する考え方などを聞き、次の通りの主張を行いながら、次回交渉(有額回答指定日)までに組合要求に沿った回答の提示をするよう強く求めました。

我々にとっての今夏季一時金は、これまで続いている諸物価高騰から組合員を守るための賃金の

後払い的要素を大いに含んでいる。

両協会の今夏季一時金に対する考え方は、我々の要求や考え方と相反することから、次回交渉(有額回答指定日)までに現行の考え方を改め、組合要求に沿った回答構築をするよう強く求める。

『一時金』とはすなわち『生活賃金の後払い』であり、そのことは業績に左右されない従業員の生活に則したものでなければならぬ。そういった意味でも、今夏季一時金での支部間業績格差は決して認められない。

両協会ともに収支状況や先行き不透明感はあるものの、『従業員の生活防衛』というところでは労使の考え方は一致している。

組合としても従業員の生活防衛を第一義課題として考えていることから今夏季一時金については支部間での業績格差の無い乗率を重視した組合要求に沿った有額回答を求める。



次回交渉: 6月25日(水)10:00~ 第4回 25 夏季一時金交渉

次回交渉は『有額回答指定日』各地域闘争員会および組合員は要注目!